



意見を交換するパネリストら

太宰治ゆかりの地でネットワークづくりを

NPO法人つがる野文庫の会（平川智枝子理事長）が主催する「太宰治ゆかりの地フォーラム」が10月20日、イオンモールつがる柏イオンホールで開催されました。フォーラムでは、県内の太宰治研究者や関連施設の代表者ら4人が「太宰治ゆかりの地ネットワークづくり」をテーマに、太宰文学にちなんだ地域活性化などについて議論。太宰治学びの家（弘前市）の齊藤三千政館長は「人口減少が進む中、どうやってリピーターを確保するか考えていこう」と訴えました。そのほか、市立図書館アドバイザーの三村三千代さんが「図書館を楽しもう！」と題して講演。「図書館を育てるのは“人”。図書館で何ができるかを考え、みんなで育てていってください」と話していました。

館岡子ども会が消火器の使い方を学ぶ

館岡コミュニティ消防センターで10月23日、館岡子ども会（越後谷浩会長）のメンバーが消火器を使った消火訓練を体験しました。この子ども達は、市消防本部の消防士から消火器の仕組みや扱い方について説明を受けた後、消火訓練用の水消火器と的を使って訓練開始。勢いよく飛び出る水に驚きながら、的に描かれた火元をめがけて放水していました。参加した藤田月姫さん（瑞穂小3年）は「消火器を使ったのは初めて。重かったけどうまく消せた。貴重な体験ができた」と感想を述べました。越後谷会長は「日頃の防火意識を高めて、消火器を使う機会がないのが一番。いざというときのためにいい経験になったと思う」と話していました。



消火器を使って訓練する館岡子ども会メンバー



健康レクダンスを学ぶ参加者

いきいきと楽しく過ごすために

県レクリエーション大会兼西北五福祉レク研修会が10月23日、松の館で開催され、市内外からスポレクに関心のある人や有資格者など約70人が参加しました。大会では、お手玉を使ったゲームや健康レクダンスなど、脳や体が活性化する運動を体験。レクダンスを終えた釜范節子さん（61）は「普段使わない筋肉が刺激されていい運動になる」と話していました。そのほか、西北五レクリエーション協会（西谷須磨子会長）会員が、フリースタイル輪投げなどのニュースポーツを紹介し、参加者は楽しく汗を流しました。主催した県レクリエーション協会の塩谷彰宏会長は「この大会をきっかけに、一人一人が健康づくりや生きがいづくりの意識を高めてくれれば」と話していました。

夕暮れ時の交通事故防止を呼び掛け

10月26日、市交通安全対策協議会（福島弘芳会長）とつがる警察署（小坂一男署長）が合同で、市消防署森田分署近くの交差点（国道101号）において、交通事故防止街頭活動を行いました。県内で夕暮れ・夜間の交通死亡事故が多発していることを受け、安全運転と早め点灯の意識を高めようと、同協議会副会長の佐藤昭三副市長や小坂署長ら関係者30人が参加。「夕暮れ時の早め点灯で事故防止」と書かれた横断幕を掲げ、信号待ちするドライバーにチラシを配りながら、安全運転を呼び掛けました。小坂署長は「ドライバーの早め点灯や歩行者が反射材を身に付けるなど、自分の存在を相手に“気づかせる”ことが大事」と話していました。



早め点灯を呼び掛ける佐藤副市長

木造中剣道部が県新人大会で優勝

10月9日にスポカルイン黒石で開催された県中学校剣道競技新人大会で、木造中剣道部が団体戦男子の部で見事優勝を飾り、12月28日に兵庫県立武道館で開催される全国大会「若鷲旗剣道大会」への出場を決めました。11月2日、剣道部のメンバーが市役所を訪れ、県大会優勝の喜びと全国大会へ向けた抱負を福島市長に報告。主将の江良武瑠君（2年）は「青森のレベルの高さを全国の選手たちに見せつけてきます」と健闘を誓いました。福島市長は「木造中の強さを見せつけ、優勝旗を持ち帰るのを期待します」と激励しました。

なお、県新人大会では長内淳一郎君（2年）が最優秀選手賞を受賞。個人戦では江良武瑠君が3位の成績を修めました。



優勝を報告した木造中剣道部の皆さん



演奏と歌を披露する園児たち

お仕事がんばってね 木造西幼稚園児が職場訪問

勤労感謝の日を前に11月4日、木造西幼稚園（吉田節子園長）の園児が市役所を訪れ、「毎日のお仕事ご苦労さまです。これからお仕事がんばってくださいね」と市職員に感謝と励ましのメッセージを伝えました。

この日は、18人の園児がシクラメンの花や手作りのカレンダーなどを福島市長らにプレゼント。その後、園児たちが鍵盤ハーモニカの演奏と歌で「どんぐりころころ」を披露し、市長らも園児と一緒に歌っていました。

福島市長は「素敵なプレゼントと歌をありがとう。これから寒くなるので、風邪など引かないように元気に勉強してください」とお礼の言葉を述べました。

島田豊さん100歳おめでとう

島田豊さん（森田町）が11月5日、めでたく満100歳を迎えられ、入居している住宅型有料老人ホームで顕彰状の授与式が行われました。大正5年生まれの島田さんは北海道斜里町出身。亡くなった夫の亮司さんが尋常小学校の教師であったため、主婦として家を守りながら5人の子どもを育て、孫11人、ひ孫にも恵まれました。この日、市の境宏福祉部長らが入居中の施設を訪れ、島田さんへ顕彰状と記念品を贈呈。お祝いに駆け付けたお孫さんや入居者、職員らから大きな拍手で祝福された島田さんは、笑顔で喜んでいました。島田さんは「長寿の秘訣は物嫌いなく何でも食べること。一番の幸せは5人の子どもに親孝行してもらっていること」と話していました。



100歳を迎えた島田さん（右）と孫の彩子さん



石碑の除幕を行ったヴィラック・メットカーフ車力通信所指揮官（左）と関係者ら

地域共栄へ相互理解を深める

車力分屯基地で10月17日、米陸軍車力通信所10周年記念行事が行われ、関係者ら約100人が参加し、地域と米陸軍共栄のための相互理解を深めました。

式典には福島市長、木村太郎衆議院議員、ジェームス・D・シリング米国ミサイル防衛庁長官など多数の来賓が参列。シリング長官は「車力で日米関係が良好なのは、地域の皆さまのご協力とご支援の賜です」と語りました。続いて、栗秋健士車力分屯基地司令のあいさつ、来賓からの祝辞があり、その後は会食や音楽隊の演奏などを通じて、さらなる親交を深めていました。式典終了後は米陸軍車力通信所内において10周年を記念した石碑の除幕式を行い、10年間の歩みを確認しました。